

報道関係者各位

2011年6月2日

このたびの東北関東大震災により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。一日も早く復興されますようお祈りいたします。

社会貢献事業財団といたしましても、復興支援活動を行ってまいりますので、ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

No.0001

地震などの災害時にも、平常時にも生かせる 「気づき」と「実践力」を身につける新資格！ 「防災介助士」資格取得講座 ～ 2011年9月1日開講 ～

社会貢献事業の環境を創造・支援する、一般財団法人社会貢献事業財団（東京都新宿区。代表理事：畑中 稔）では、NPO法人日本ケアフィットサービス協会（サービス介助士資格認定団体）、NPO法人シュアティ・マネジメント協会、防災ボランティア支援機構の協力により、平常時にも地震などの災害時にも生かせる防災と介助の「気づき」と「実践力」を持つ人材育成のための資格「防災介助士（Suring Care-Fitter）」の認定と、同資格取得のための「防災介助士資格取得講座」（総監修：目黒公郎 東京大学教授）を2011年9月1日に開始いたします。

防災介助士(Suring Care-Fitter)とは、いつも人々が安心して暮らせるシュアティ(Surety)*に満ちた社会づくりに貢献する人々のための資格です。

防災介助士は、防災の専門的な知識・方法と、高齢者・障がい者をはじめとする、すべての人々に対する「おもてなしの心」と介助技術を、体験しながら学ぶことで、様々な状況下で適切に対応できる実践力を身につけます。

平常時のみならず地震などの災害時を含めた多様な場面で活躍できる、企業やコミュニティのリーダーの育成に大いに役立つ資格です。

※シュアティ…近年の大規模化する自然災害や現代の社会的な要因による人為災害の連続、あるいは米国の同時多発テロなどの発生などに対し、「平常時における信頼性」「異常時における安全性」「テロなど人間の悪意に対するセキュリティ」を包括する概念として米国サンディア国立研究所により提唱されました。



《本件に関するお問い合わせ先》

一般財団法人 社会貢献事業財団 防災介助士推進事務局（担当：向笠）

所在地：〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町5番地8

電話：03-3513-0966 FAX：03-3513-0967

E-MAIL：contact@fsoco.org URL：http://www.fsoco.org

■□■ 防災介助士 資格取得講座の特色 ■□■

「専門知識体系の習得」「実務経験の体得」「資質・姿勢・倫理観の会得」の3つにより、地震などの災害時にも、平常時にも、多様な状況に適切に対応できる「実践力」を養成します。

●専門知識体系の習得

「防災」と「介助」およびその組み合わせである「防災介助」を体系的に学べるテキスト・映像教材を使用し、専門性の高い知識を身につけます。

●実務経験の体得

災害疑似体験、高齢者疑似体験などの体験型プログラムを通し、日常生活では経験することのできない「気づき」を導き、平常時にも災害時にも主体的に活動するための経験を積みます。

●資質・姿勢・倫理観の会得

講座を通してコミュニティや組織に対するリーダーシップ力を養うことにより、防災や介助の社会的価値を実現するために求められる資質と姿勢、そして倫理感を会得します。

■□■ 防災介助士 資格取得講座の概要 ■□■

《受講期間》

お申し込みから最長 12 か月以内です（原則課題提出 6 か月以内、延長制度あり）。

《学習内容》

「シユアリング防災編」「サービス介助編」の2種類のテキストと映像教材（DVD）による自宅学習を行い、課題を提出します。

課題合格後に2日間の実技教習を受講し、検定試験を受験します。

※別途、社会貢献事業財団資格審査委員会の審査基準による、学習内容の一部免除規程があります。

※一定の運動量を伴うカリキュラムがありますので、健康状態に不安のある方はお申し込み前にご相談ください。（妊娠中の方は受講できません）

《防災介助士認定証》

検定試験合格者は防災介助士の登録申請をします。申請には、消防署、日本赤十字社などが主催する救急救命講習を受講した「救命技能認定証」が必要です。登録後に認定証が授与されます。

（救急救命講習は、各実施機関に直接申し込んで別途受講してください）

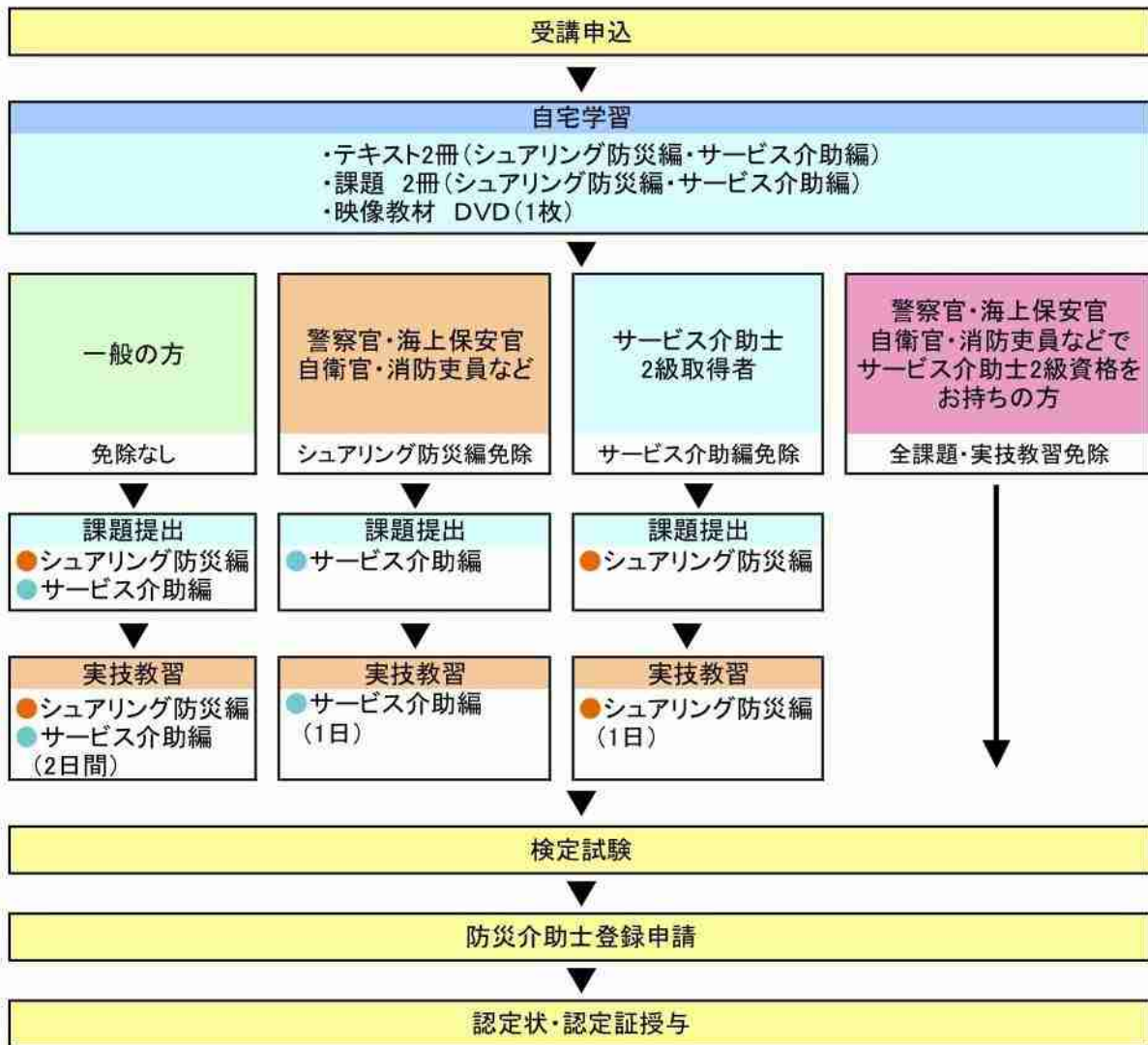
《受講料》

一般受講者（予定価格） 57,750円（税込）

※サービス介助士2級取得者など学習内容一部免除の方は、別途お問い合わせください。

※防災介助士資格の登録有効期間は3年間です。有効期間内に別途定める資格継続規定に基づき更新登録要件を満たした後、更新手続きをすませてください（別途費用が必要となります）。

■□■ 受講の流れ ■□■



救急救命講習を受講／消防署・日本赤十字社など

※防災介助士取得講座受講開始～検定試験合格までの間に、消防署・日本赤十字社などが主催する救急救命講習を受講してください。

「救命技能認定証」を添えて防災介助士登録申請し、登録後に防災介助士認定状・認定証が授与されます。

○ テキストの主な内容 ○

【シュアリング防災編】	【サービス介助編】
第1部 防災介助エントリー 第1章 防災介助の基本理念 第2章 防災介助の社会的背景 第3章 防災介助の必要性 第4章 防災介助の構成および学び方	
第2部 防災介助士としてのシュアリング防災思考 第1章 シュアティ 第2章 コミュニティ 第3章 防災介助士の活動	第2部 防災介助士としてのサービス介助思考 第1章 ジェロントロジー 第2章 ホスピタリティ・マインド 第3章 防災介助士の接遇
第3部 平常時からのシュアリング防災 第1章 災害とはなにか 第2章 自然災害による被害と防災 第3章 人為災害の被害と防災	第3部 平常時からのサービス介助 第1章 障害とはなにか 第2章 障がい者への理解と介助 第3章 高齢者への理解と介助
第4部 災害時におけるシュアリング防災 第1章 災害時必要技術とはなにか 第2章 緊急救助技術を身につける 第3章 災害時の避難行動 第4章 災害時の避難所運営	第4部 災害時におけるサービス介助 第1章 災害時要援護者とはなにか 第2章 災害による命と心 第3章 災害時の医療・救護 第4章 災害時の情報コミュニケーション
第5部 関連法規および制度	第5部 関連法規および制度
補助資料 他	補助資料 他

※各章の内容は、現時点で収容予定されているものですので、若干変更される場合がございます。

○ 映像教材（DVD）の特徴 ○

「災害対応循環体系」（右図）にそって、地震・津波・風水害・火山・火災・伝染病などの災害の実例ごとに、災害発生から復旧・復興、防災までの一連の流れを学べる構成になっています。

また、「災害対応循環体系」の各局面について、さまざまな災害のケースを横断的に学ぶこともできます。



○ 実技教習カリキュラム（一般受講） ○

実技教習カリキュラム（一般）

防災介助編（1日目）		防災介助編（2日目）	
	9:30		
オリエンテーション	10:00	シュアリング	
ホスピタリティ、コミュニケーション ノーマライゼーション、パースペクティブ		LCM、BCM	
高齢者のイメージ	11:00	災害の理解	
高齢者疑似体験 (昼食時間含む)	12:00	自然災害疑似体験 (地震→火災→水害)	
感想発表	13:00	救出・避難疑似体験	
ジェロントロジー、介助の心構え		疑似避難所体験 (昼食時間含む)	
接遇	14:00	災害発生前 防災・準備 (知識の確認・技術)	
車いす使用者への介助	15:00	災害発生後 災害弱者、救出、救護 (知識の確認、技術)	
	16:00	ロールプレイ	
視覚障がい者への介助	17:00	意見交換・まとめ	
聴覚障がい者への介助		検定試験	
障がい者への自立支援	18:00		

※社会貢献事業財団資格審査委員会の審査基準により、学習内容の一部免除をされた方(サービス介助士2級資格取得者など)向けの1日コースもあります。

□■□■ ■ 防災介助士 開発・運営組織図 ■■□■□



【協力団体】 防災ボランティア支援機構

●○● (防災介助士 資格認定団体)

一般財団法人 社会貢献事業財団 ●○●



一般財団法人社会貢献事業財団は、社会貢献事業環境の創造・支援を目的に、2011年11月に設立されました。共育、文化、学術振興、災害支援、国土開発または保全、防災、環境、資源、エネルギー、社会福祉、及び社会貢献に関する研究ならびに事業への支援を通じ、世界における社会貢献事業環境を整えることを目的として活動しています。

● 事業内容 ●

- (1) 共育、文化、芸術に関する優れた研究及び事業業績に対する各種の賞の授与
- (2) ジェロントロジー国際会議の開催及び企画運営
- (3) 社会貢献事業としての新業態の確立と認知の向上及び普及活動
- (4) 社会貢献、社会福祉に関する国内外情報収集、調査、広報及び宣伝活動
- (5) 社会貢献事業に関する研究への助成
- (6) 海外諸国、主として発展途上国における当法人が掲げる事業に対する助成
- (7) 奨学金制度に関する助成
- (8) 検定資格の企画開発、認定及び講座の運営
- (9) 福祉施設及び医療施設の運営管理
- (10) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

【ケアフィットファクトリー構想の推進】

「ケアフィットファクトリー」とは、医療、福祉、共育、科学、芸術、スポーツ施設等が備えられた環境で、高齢者や障がい者、子どもたちなど、あらゆる人が共に働き、学び、生活する場を創造することを目的とし、社会貢献事業財団ではこれを推進しています。

《循環型社会プロジェクト》

循環型社会プロジェクトとは、循環型社会をマクロ的に捉え、経済全体の活性化を図る取り組みです。

廃棄物を資源に再生することはもとより、労働力や生産性まで視野に入れた新しい価値を創造していきます。

現在、第一次産業に着目し、新しい技術を取り入れた安心・安全・安定の食物づくりを支援しています。また、食物残渣や食品廃棄物などのゴミを出さずに再利用するエコフーズシステムを取り入れた循環型社会を実現していきます。

《防災介助士（Suring Care-Fitter）》（2011年9月1日開講予定）

NPO法人日本ケアフィットサービス協会、NPO法人シュアティ・マネジメント協会、防災ボランティア支援機構の知恵が統合された資格で、社会貢献事業財団が認定します。（要参照：本書 pp. 1～5）

《ジェロントロジー国際総合会議》

NCSAジェロントロジーセンターとともにジェロントロジー※（創齡学）の啓蒙活動、ならびに研究活動の発表の場として、世界各地でシンポジウムを開催しています。

※ジェロントロジー：Gerontology。創齡学。一人ひとりが生まれてから死ぬまでの人生を健康に過ごし、より生活の質を高め、齢（よわい）を素敵に創り上げていくための学び。

◆ロシアサンクトペテルブルグジェロントロジー国際総合会議 2011

（2011年4月11～13日開催）

◆ダ・ヴィンチ・気がつくプロジェクト 2012

（2012年4月15日～開催予定）

テーマ：教育から共育へ：若さは賜であり老いは芸術である



《震災復興支援活動》

この度の東北関東大震災による被害に対する支援のため、社会貢献事業財団をはじめとするケアフィットグループでは、主に高齢の方や障がいのある方々への支援活動を行っています。

震災復興支援活動サイト：<http://www.shakaikoukencfg.jp>

【ケアフィットファクトリー構想図】



各組織と事業のコーディネートと
ネットワーク化を図ります

●○● (防災介助士 資格開発団体-1)

内閣府認証 NPO法人 日本ケアフィットサービス協会 ●○●



社会貢献事業財団が所属するケアフィットグループの中核を担う日本ケアフィットサービス協会は、介護保険制度の実施に伴い、「高齢者を寝たきりにさせない！」をテーマに、一人ひとりにフィットしたサービス介助技術の普及と共育を図ることによって、高齢者のみならず障がい者や子どもたちも安心して街に出かけられる、社会的・心理的環境づくりを目的として、1999年に設立されました。

超高齢社会に突入した日本の社会の現状をふまえ、年齢や障がいがあるなしにかかわらず、誰もが心豊かに暮らせる社会環境づくりをめざして、共育、広報、社会貢献活動などを幅広く展開しています。

また、このたびの社会貢献事業財団が実施する防災介助士資格取得講座のカリキュラムには、サービス介助士の学びも取り入れられています。



《サービス介助士検定取得講座》

サービス介助士は、「おもてなしの心」と「介助技術」を身につける学びです。街の中で、サービス業の現場において手伝いを必要としている方に温かな心と適切な介助技術で対応できるスペシャリストです。

交通旅客業、流通業、宿泊業、金融業などのサービス業や公共施設（役所、学校など）をはじめとする様々な職場で活躍しており、サービス介助の学びは約700法人で導入されています。また、職場だけでなく、ボランティアや普段の生活の中でも学んだことを活かして様々な人への手伝いをしています。

【サービス介助士取得者数】

(2011年5月6日現在)

級	取得者数
2級	78,229人
準2級	3,793人
3級	314人

○サービス介助士2級の学習内容(概要)○

サービス業の現場を想定した学びでは、お客様それぞれの違いを認識し、「百人百様の介助」を心がけることが基本となります。ノーマライゼーションの視点、またホスピタリティ・マインドを持ってどのようなお客様にもご満足いただけるような心を育む講座となっています。

〔サービス介助士2級実技教習風景〕 ※実習内容の一部です



高齢者疑似体験



車いす操作



視覚障がい者への案内

2級以外にも、通信講座のみで取得できるサービス介助士準2級、中高生対象のサービス介助士3級（ジュニア・ケアフィッター）があります。また、上級資格として「サービス介助士1級」「サービス介助士準1級」などの開発を進めています。

《海外へ広がるケアフィットの学び》

日本ケアフィットサービス協会は、アメリカ合衆国、インド、台湾に支部を持っています。また中国、韓国などへのネットワークを構築中です。

台湾では2008年からサービス介助士（安心サービス介助士）の資格検定がスタートしています。インドでは、特に貧困層への様々な福祉活動を基軸とした共育プログラムが進行しています。またアンドラ大学では、NCSAジェロントロジーセンターとともに、世界規模でジェロントロジー（創齡学）の研究、普及に努めています。

《社会貢献ネットワーク》

急増するサービス介助士有資格者が、その豊かな経験と知識をもって活動することにより生まれる心豊かな共生社会。それこそが日本ケアフィットサービス協会が目指す理想の社会です。

その構築のために、有資格者の活動を組織として支える「ケアフィットソサエティ倶楽部」、また有資格者がそれぞれの才能をもって社会に貢献する「ケアフィットマイスター制度」の運営を行っています。

老若男女、障がいのあるなしにかかわらず、すべての人々の心をつなぎ、幸せを追求できる、ケアフィットソサエティの構築を目指して活動中です。

〔ケアフィットソサエティ倶楽部活動風景〕



介助ボランティア活動



スポーツ交流（デフサッカー）



各種勉強会（点字勉強会）

●○● (防災介助士 資格開発団体-2)

NPO法人 シュアティ・マネジメント協会 ●○●



NPO法人 シュアティ・マネジメント協会 [シューマ]
Surety Management Association [SUMA]

災害と共存しながらも、安心して暮らせる幸せな社会へ

私達シューマは、「災害と共存しながらも、安全で安心して暮らせる幸せな社会の実現」のために、その理念をシュアティ [Surety] という言葉に集約し、その活動をシュアリング・サイクル(様々な災害に対しての自主的で前向きな活動)として展開しております。自然・人為的災害から愛する人を守りたいという、命への純粋な気持ちと感性を大切に活動を進めています。



シュアティ [Surety] とは

近年の大規模化する自然災害や現代の社会的な要因による人為災害の連続、あるいは米国の同時多発テロなどの発生などに対し、「通常的环境における信頼性」「異常時における安全性」「テロなど人間の悪意に対するセキュリティ」など、これまでの防災や防犯、安心・安全などを包括する概念として提唱しています。

SUMAの活動原点と目指すもの

シュアティを活動の原点において、自然災害(地震、洪水等)、人為災害(火災、テロ、伝染病、子どもへの犯罪、紛争、飢餓等々)の社会的な不安定状態を『災害』として定義しました。

この前提で積極的に生活環境の改善から、社会全体の災害対応力向上を図り、生活の安心を現実のものとするための国際的協調活動を含め、市民の1人1人の皆さんと手を携えて継続して実現することを目標としています。

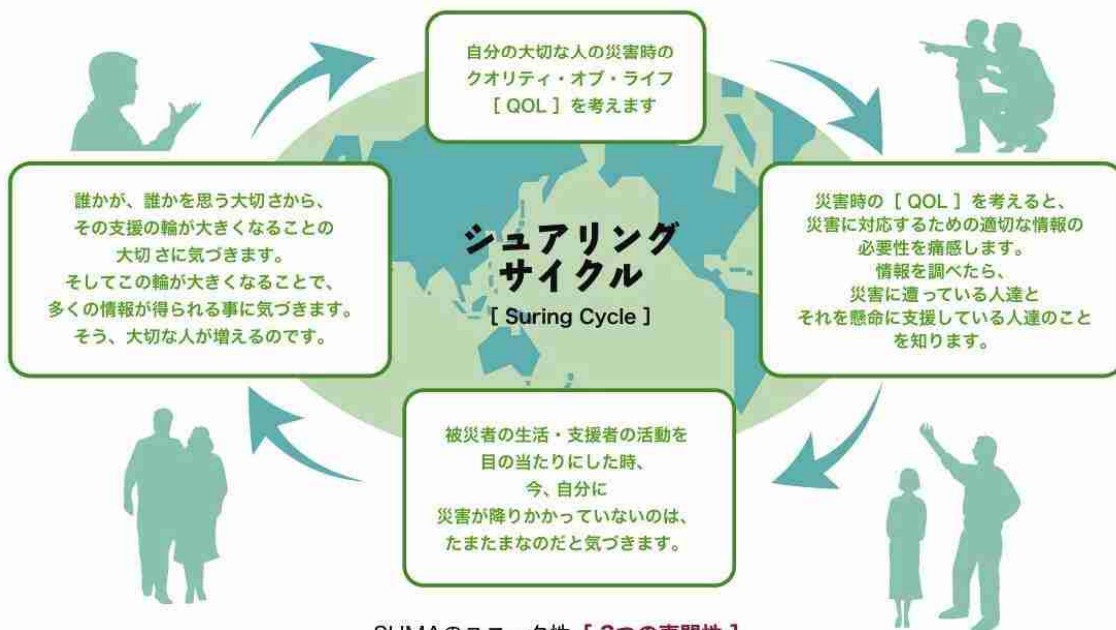
あなたの【小さな思い】で世界を少し変えてみませんか？

「絶対に生きていて欲しい、大切な人を守りたい」

この気持を世界中の人々が持ったならば、それが世界を救うことにつながります。
大切な人のために自分ができることを日々、思うこと。それは個人にしかできない最小単位のシュアリングであり、
この連鎖が個人が参加できる地球規模のシュアリングプロジェクトとなり、
これを皆様と一緒に世界中の人々の手で実現すべきだと私達SUMAは信じています。
皆様の参加を心よりお待ちしております。

SUMAのユニーク性【シュアリング・サイクル (Suring Cycle) の実現】

防災や防犯という概念を大きく包括する言葉として、シュアティという言葉を提唱し、
「災害と共存しながら、安全で安心して暮らせる幸せな社会の実現」のための活動、シュアリング・サイクルを展開します。



SUMAのユニーク性【3つの専門性】

シュアリング活動においては、災害に対する専門的知見や持続的に継続できる事業性が大変重要です。
しかしながら、その活動が人々の感性に訴える内容でなければ、多くの人々の共感を得られません。
SUMAでは、この災害専門性、事業性、感性の3つの専門性のバランスを大切にし、
各分野のエキスパートがSUMAの活動に参画し、支援しています。



SUMAのユニーク性【マーケットの創造】

地域でシュアリング活動を展開する個人・団体を支援し、シュアリング・サイクルを継続的に回すためには、この分野がマーケットとして創造されなければなりません。NPO SUMAは、マーケットの創造を重要視し、自らマーケット創造に向けた活動や働きかけを行うとともに、マーケット創造に取り組む企業・団体を支援します。

詳しくは <http://www.suma-j.com/>

お問合せ先 support@suma-j.com

《防災介助士 お問い合わせ先》



一般財団法人

社会貢献事業財団

防災介助士推進事業局

担当：向笠

所在地：〒162-0846

東京都新宿区市谷左内町5番地8

電話：03-3513-0966

FAX：03-3513-0967

メール：contact@fsoco.org

URL：<http://www.fsoco.org>